

第2章 小野市の子どもと子育て家庭を取り巻く現状

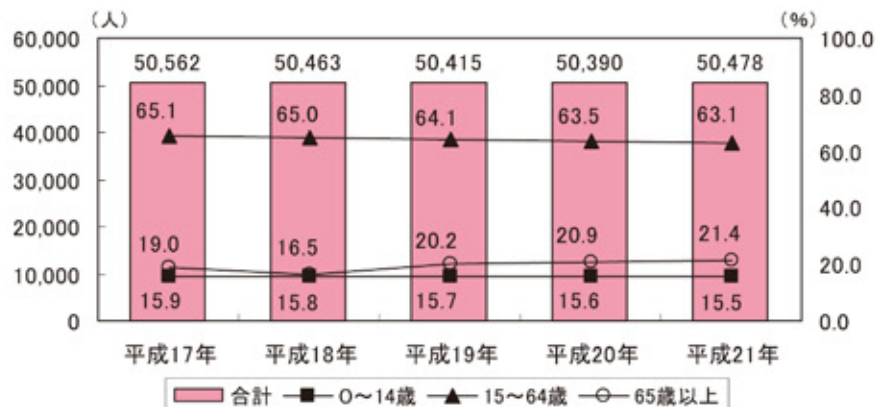
1. 統計からみる現状

(1) 人口動態等の現状

1) 総人口と年齢3区分の人口の推移

本市の総人口は平成20年まで各年で減少していましたが、平成21年には増加に転じ50,478人となっています。

年齢3区分別にみると、0～14歳人口と15～64歳人口は各年で減少していますが、65歳以上人口では増加しており、少子高齢化の進行がみられます。

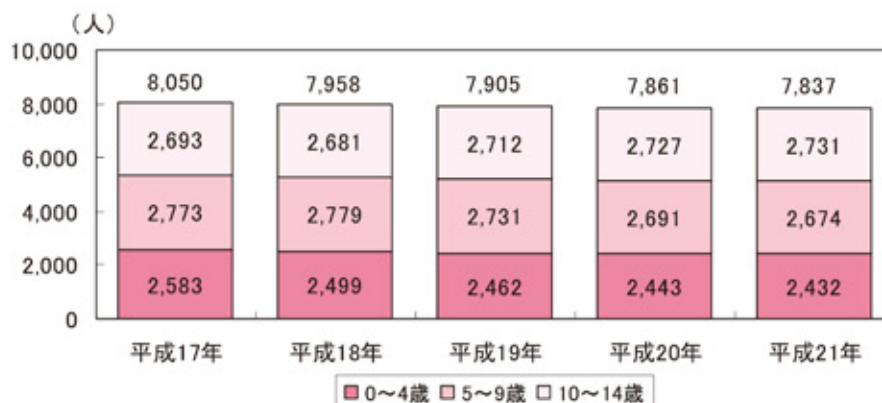


資料：住民基本台帳（各年3月31日現在）

2) 年少人口の推移

年少人口をみると、各年で減少しており平成21年は7,837人となっており、平成17年と比較して213人減少しています。

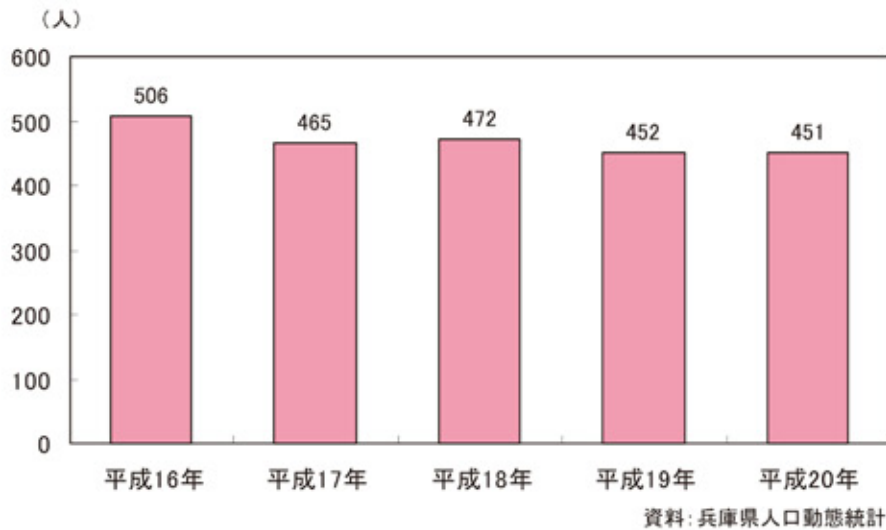
また、5歳ごとの年齢階層別にみると、「10～14歳」は増加傾向にありますが、「0～4歳」と「5～9歳」は減少傾向にあります。



資料：住民基本台帳（各年3月31日現在）

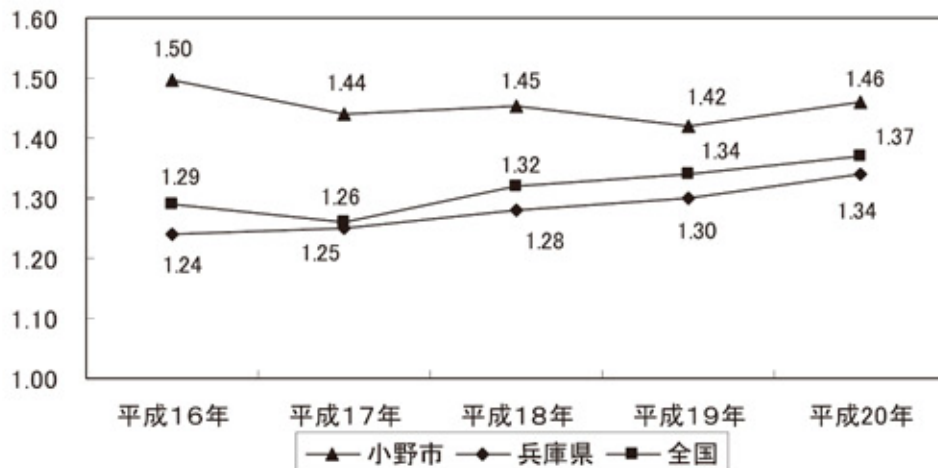
3) 出生数の推移

出生数は増減していますが、平成20年は451人と平成16年から4年間で55人減少しています。



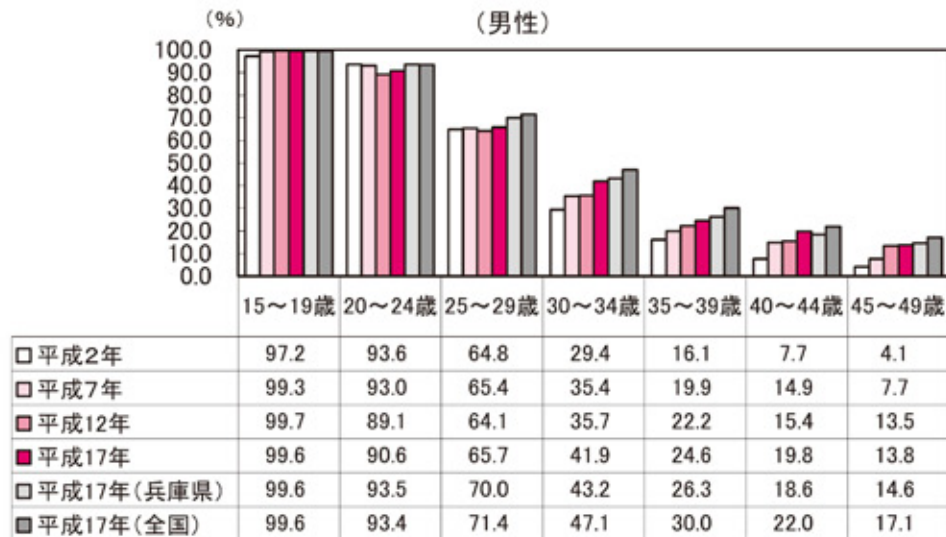
4) 合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率は増減しており、平成20年では1.46となっています。兵庫県や全国と比較すると、0.1ポイント程度高くなっています。



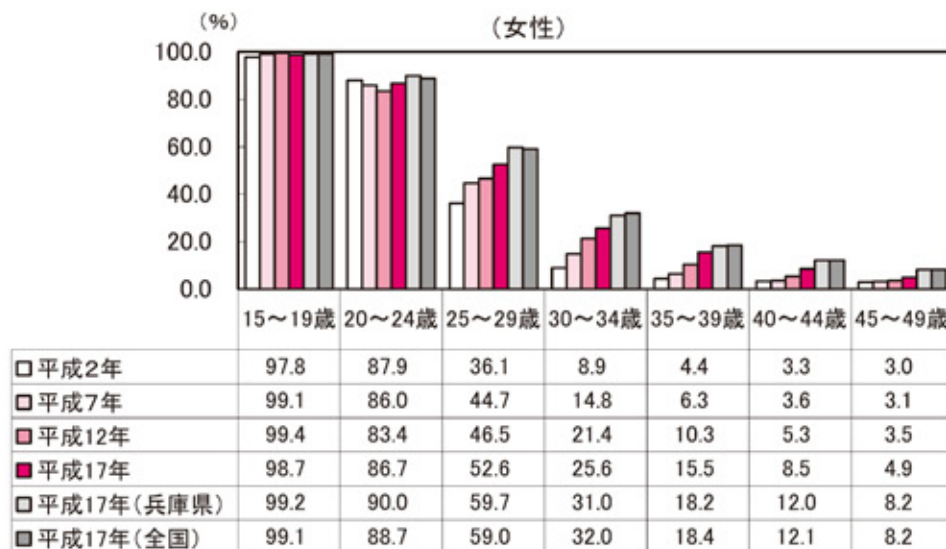
5) 未婚率の推移

男性の未婚率は、30 歳以上において各年で増加していますが、全国と比較して低くなっています。



資料:国勢調査

女性の未婚率は、25 歳以上において各年で増加していますが、兵庫県や全国と比較して低くなっています。

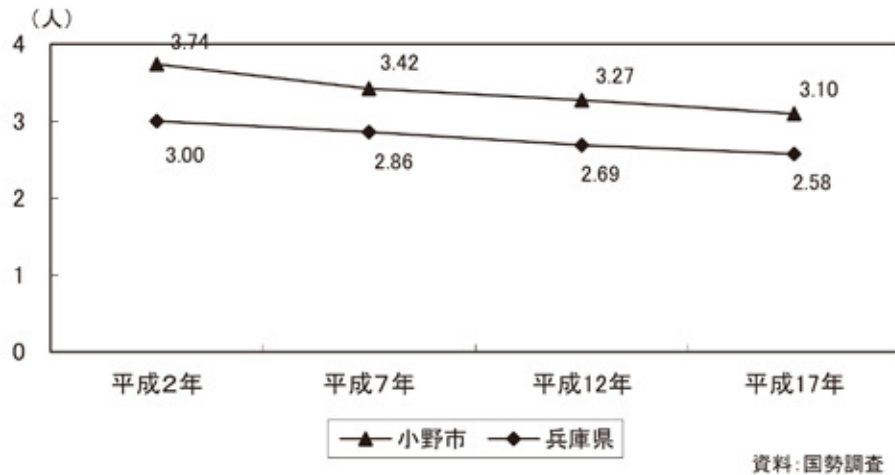


資料:国勢調査

(2) 世帯の状況

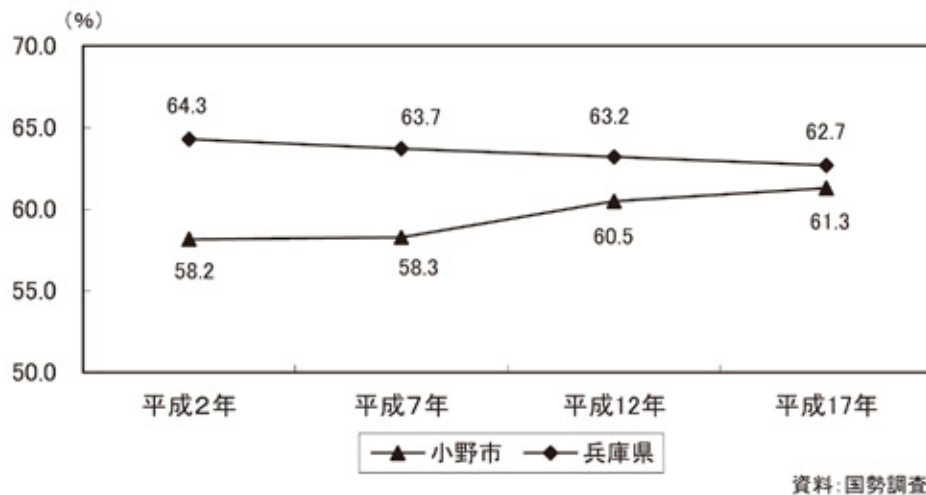
1) 1世帯あたり人員数の推移

1世帯あたり人員数では、各年で減少し平成17年では3.10人となっており、平成20年では2.82人（資料：小野市の保健と福祉）となっています。



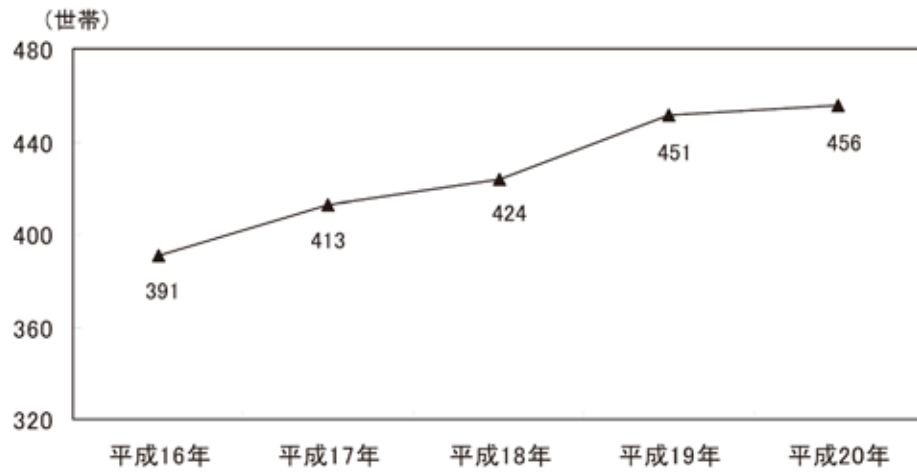
2) 核家族世帯割合の推移

核家族世帯割合では、各年で増加しており、全世帯に占める割合が6割を超えています。また、兵庫県と比較すると低くなっていますが、近年その差は小さくなってきています。



3) 母子世帯の推移

母子世帯は各年で増加し、平成20年には456世帯となっており、平成16年と比較すると65世帯多くなっています。

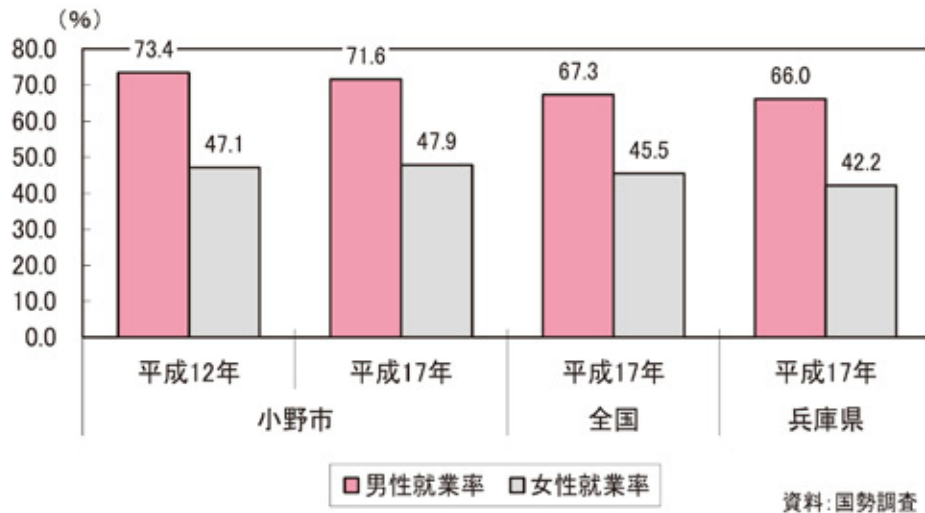


資料：小野市の保健と福祉

(3) 就労状況等

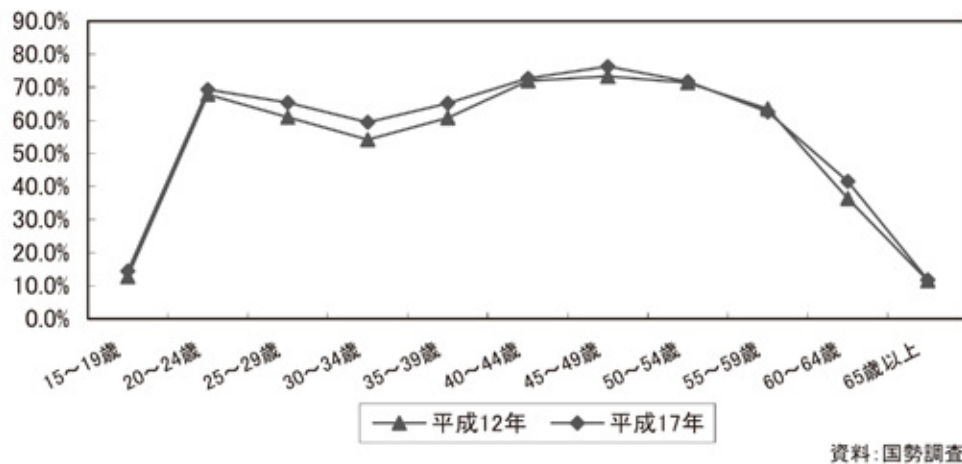
1) 男女別就業率の推移

女性の就業率は若干増加傾向にあり、平成17年には47.9%となっており、全国や兵庫県と比較しても、男性・女性ともに高くなっています。



2) 女性就業率の推移

女性の就業率について平成12年と平成17年を比較すると、すべての年齢階級において平成17年の就業率が高くなっており、特に25～29歳、30～34歳、40～44歳において上昇しています。



2. 育児サービスに関するこれまでの取り組み

(1) 保育所の状況

1) 認可保育所の状況

平成21年4月1日現在、市内の認可保育所数は14施設で、すべて民間（社会福祉法人）となっており、定員数は計1,420人、市内入所児童数は計1,365人となっています。開所時間はおおむね7:00～19:00となっていますが、栗生保育所と光明保育所では20:00まで開所しています。各認可保育所の市内入所児童数は下表のようになっており、児童数が定員を上回る保育所もありますが、保育所定員の弾力化により、待機児童は発生していません。

平成21年4月1日現在

保育所名	開所時間	定員	市内入所 児童数	定員 充足率	特別保育
亀鶴保育所	7:00～19:00	90人	63人	70.0%	延長、障害、一時、休日
中央保育所	7:00～19:00	90人	63人	70.0%	延長、障害、一時
栗生保育所	7:00～20:00	90人	71人	78.9%	延長、障害、一時
みやま保育園	7:00～19:00	50人	26人	52.0%	延長、障害、一時
下東条中央保育園	7:00～19:00	120人	116人	96.7%	延長、障害、一時
下東条西保育所	7:00～19:00	90人	85人	94.4%	延長、障害、一時
小野ひまわり保育所	7:00～19:00	60人	63人	105.0%	延長、障害、一時
白百合保育園	7:00～19:00	120人	122人	101.7%	延長、障害、一時
市場保育園	7:00～19:00	90人	98人	108.9%	延長、障害、一時
北辰保育園	7:00～19:00	90人	95人	105.6%	延長、障害、一時
光明保育所	7:00～20:00	120人	118人	98.3%	延長、障害、一時
小野保育所	7:00～19:00	200人	216人	108.0%	延長、障害、一時
育ヶ丘保育園	7:00～19:00	90人	98人	108.9%	延長、障害、一時
来住保育所	7:00～19:00	120人	131人	109.2%	延長、障害、一時

資料：子育て支援課

2) 市内認可保育所入所状況の推移

市内認可保育所の入所状況の推移をみると、各年で増減を繰り返しており、平成21年には1,463人となっています。また、各年において定員充足率では100%を若干上回っています。

各年4月1日現在

		平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
	0歳	39人	30人	32人	30人	28人
	1歳	127人	124人	121人	113人	158人
	2歳	187人	205人	190人	189人	180人
	3歳	318人	329人	338人	325人	296人
	4歳	421人	395人	393人	383人	412人
	5歳	392人	442人	397人	390人	389人
合計		1,484人	1,525人	1,471人	1,430人	1,463人
定員		1,430人	1,430人	1,430人	1,430人	1,420人
定員充足率		103.8%	106.6%	102.9%	100.0%	103.0%
保育所数		14か所	14か所	14か所	14か所	14か所
保育士数		177人	179人	203人	222人	210人

資料：子育て支援課

3) 特別保育の実施状況の推移

本市では特別保育として、延長保育、一時保育（一時預かり）、乳児保育、障害児保育を市内すべての認可保育所で実施しています。また、休日保育は亀鶴保育所が実施しています。

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度 (見込み)
乳児保育	か所数	14か所	14か所	平成19年度から通常保育として実施しています。		
	年間実利用児童数	39人	30人			
延長保育	か所数	14か所	14か所	14か所	14か所	14か所
	年間実利用児童数	92人	93人	88人	79人	84人
障害児保育	か所数	14か所	14か所	14か所	14か所	14か所
	年間実利用児童数	19人	38人	43人	41人	42人
一時保育 (一時預かり)	か所数	14か所	14か所	14か所	14か所	14か所
	年間延利用児童数	2,259人	2,304人	2,429人	2,755人	2,427人
休日保育	か所数	1か所	1か所	1か所	1か所	1か所
	年間延利用児童数	195人	134人	88人	126人	124人

資料：子育て支援課

(2) 幼稚園の状況

市内には、公立のわか松幼稚園、小野東幼稚園の2園があります。園児数は平成17年以降において大きな変化はなく、平成21年には199人となっています。定員充足率では、各年において80%台で推移しており、平成21年は81.2%となっています。

各年5月1日現在

		平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
	4歳	99人	94人	100人	92人	99人
	5歳	106人	113人	102人	114人	100人
合計		205人	207人	202人	206人	199人
定員		245人	245人	245人	245人	245人
定員充足率		83.7%	84.5%	82.4%	84.1%	81.2%
幼稚園数		2か所	2か所	2か所	2か所	2か所
学級数		7学級	7学級	7学級	7学級	7学級
教員数		9人	11人	10人	11人	12人

資料：学校教育課

(3) アフタースクールの状況

アフタースクールの状況では、平成18年度から実施か所数が1か所（地域型アフタースクール）増加し、それにともない利用者数も増加しています。

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
か所数	8か所	9か所	9か所	9か所	9か所
利用児童数	237人	269人	272人	309人	308人

※利用児童数は月平均の人数（平成21年度は4月から12月の平均）

資料：子育て支援課

（４）ファミリーサポートセンターの状況

平成 17 年度から平成 20 年度までの推移をみると、協力会員においては大きな変化はありませんが、依頼会員では平成 17 年度 186 人、活動件数 578 件、平成 20 年度においては依頼会員が 461 人、活動件数が 3,616 件と大きく増加しています。

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
か所数	1 か所	1 か所	1 か所	1 か所	1 か所
依頼会員	186 人	302 人	395 人	461 人	526 人
協力会員	73 人	81 人	86 人	84 人	83 人
活動件数	578 件	2,450 件	3,626 件	3,616 件	1,416 件

資料：子育て支援課（平成 21 年度は 12 月末現在）

（５）乳幼児健康診査の受診の状況

乳幼児健康診査の受診状況は、すべての乳幼児健診において 90%以上の受診率となっています。

		平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
4 か月児健診	受診者数	466 人	468 人	432 人	433 人	356 人
	受診率	97.5%	95.3%	97.5%	97.5%	98.6%
1 歳 6 か月児健診	受診者数	471 人	471 人	426 人	429 人	375 人
	受診率	92.2%	97.1%	96.8%	95.8%	95.9%
3 歳児健診	受診者数	496 人	467 人	484 人	459 人	371 人
	受診率	96.3%	97.1%	96.4%	95.0%	97.1%

資料：健康課（平成 21 年は 12 月末現在）

（６）母子健康手帳の交付の状況

妊娠届出時に母子健康手帳を交付するとともに、妊婦相談を実施しています。

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
手帳交付数	514 人	440 人	453 人	532 人	361 人

資料：健康課（平成 21 年は 12 月末現在）

(7) 各種健康教育の実施状況

本市では、子育てに必要な知識の普及、子育て支援サービスに関する情報提供、母親同士の交流や仲間づくりなどのために、各種健康教育を実施しています。

保護者を対象に子育てに関する各種知識の普及を目的とした教室から小・中学生を対象とした思春期ふれあい体験学習等を実施しています。

	平成 17 年度		平成 18 年度		平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度	
	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数
未来のパパママ教室	6 回	136 人	6 回	162 人	6 回	157 人	6 回	138 人	4 回	97 人
7 か月児教室	12 回	280 人	12 回	273 人	12 回	261 人	12 回	282 人	9 回	236 人
2 歳児教室	—	—	—	—	12 回	216 人	12 回	219 人	9 回	172 人
子育て健康講座	4 回	135 人	4 回	179 人	4 回	176 人	4 回	145 人	3 回	107 人
保育所・幼稚園 (パワフルキッズ教室他)	10 回	1,219 人	7 回	763 人	10 回	944 人	10 回	700 人	8 回	616 人
思春期ふれあい体験学習	4 回	44 人	3 回	60 人	3 回	88 人	3 回	19 人	5 回	51 人

資料：健康課（平成 21 年は 12 月末現在）

(8) 相談事業の状況

1) 家庭児童相談室の状況

家庭児童相談室については、福祉事務所に相談員を配置し、家庭における児童の健全な養育相談、療育相談等に応じています。相談指導件数は、各年で増加しており、特に家族関係に関する相談が多くなっています。

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
相談指導件数	726 件	861 件	1,966 件	2,545 件	1,596 件
性格・生活習慣等	142 件	121 件	232 件	325 件	268 件
知能・言語	109 件	190 件	288 件	390 件	288 件
学校生活等	35 件	23 件	38 件	47 件	22 件
家族関係	155 件	350 件	1,185 件	1,496 件	828 件
環境福祉	34 件	1 件	9 件	3 件	10 件
心身障害	194 件	158 件	204 件	187 件	169 件
その他	57 件	18 件	10 件	6 件	11 件

資料：子育て支援課（平成 21 年は 12 月末現在）

2) 健康相談の状況

母子保健事業については、集団健康相談として妊産婦健康相談、乳幼児健康相談を実施するほか、随時の健康相談、電話相談を行っています。

	平成 17 年度		平成 18 年度		平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度	
	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数
妊産婦健康相談	6 回	136 人	6 回	162 人	6 回	157 人	6 回	138 人	4 回	97 人
乳幼児健康相談	130 回	4,325 人	93 回	615 人	105 回	929 人	84 回	296 人	63 回	263 人
随時健康相談	—	642 人	—	522 人	—	717 人	—	603 人	—	569 人
電話相談	—	1,811 人	—	1,661 人	—	1,281 人	—	1,289 人	—	1,437 人

資料：健康課（平成 21 年は 12 月末現在）

3) 家庭訪問の状況

家庭訪問については、妊産婦訪問、新生児・乳幼児訪問を行っています。

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
妊産婦	227 人	257 人	404 人	450 人	372 人
新生児・乳児	233 人	257 人	398 人	446 人	372 人
幼児	19 人	120 人	173 人	196 人	106 人
合計	479 人	634 人	975 人	1,092 人	850 人

資料：健康課（平成 21 年は 12 月末現在）

4) 母子相談の状況

母子相談については、母子自立支援員が相談にあっており、身上相談に応じ、その自立に必要な助言、指導を行っています。母子家庭数は増加傾向にあり、相談内容別にみると、生活一般や生活援護の相談が多くなっています。

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
母子家庭数	413 世帯	424 世帯	451 世帯	456 世帯	457 世帯
相談指導件数	420 件	333 件	437 件	486 件	631 件
生活一般	240 件	169 件	237 件	207 件	299 件
児童問題	75 件	67 件	76 件	60 件	100 件
生活援護	103 件	94 件	121 件	213 件	229 件
その他	2 件	3 件	3 件	6 件	3 件

資料：子育て支援課（平成 21 年は 12 月末現在）

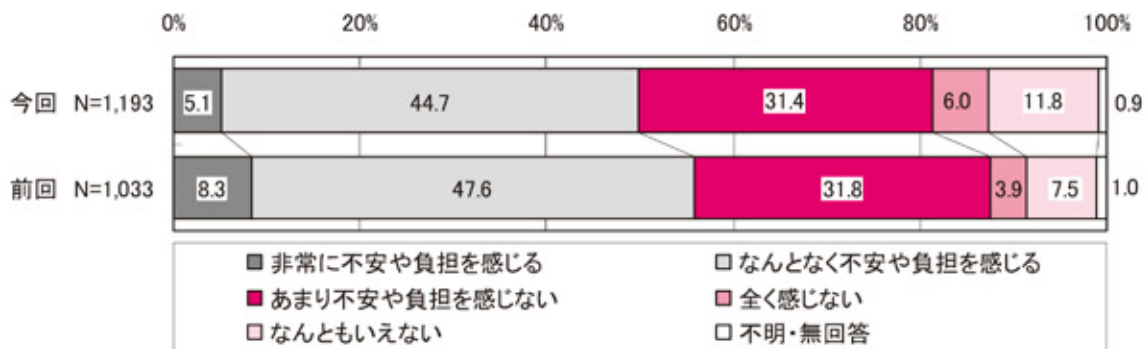
3. ニーズ調査結果からみる現状

(1) 子育てに関する意識等について

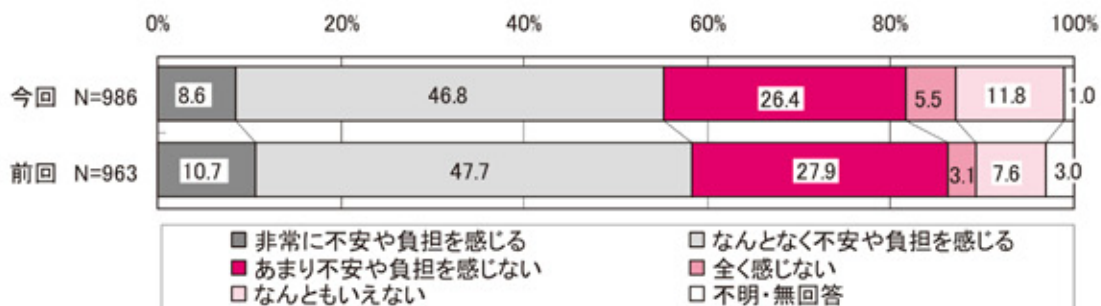
①不安や負担感について

■就学前児童調査、小学校児童調査ともに減少傾向にあります。依然として5割程の人は不安や負担を感じています。

就学前児童調査



小学校児童調査

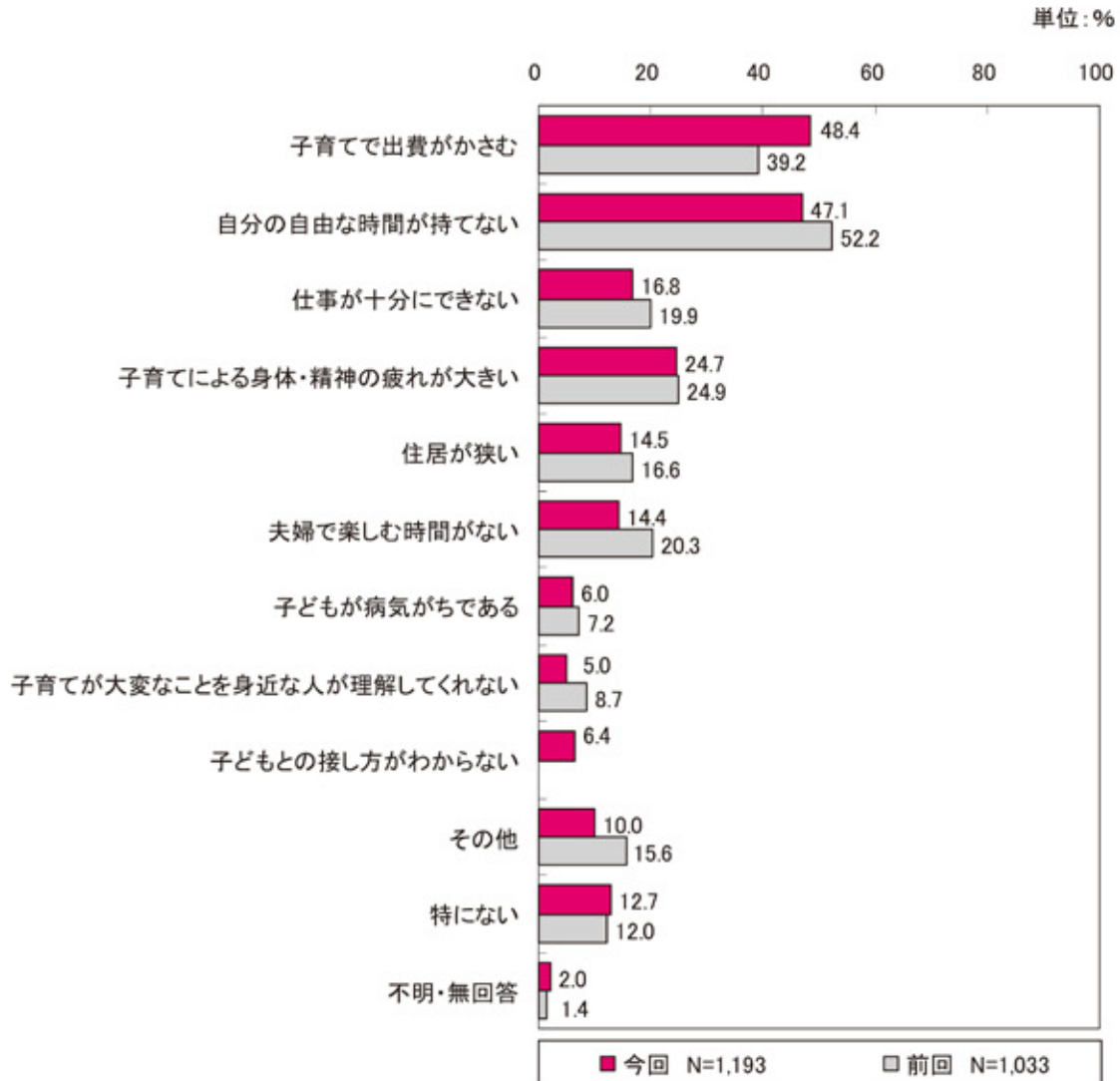


前回調査とは...

前回調査とは、前期計画策定時に計画策定の基礎資料とするために、平成16年1月30日から2月13日にかけて実施した「小野市次世代育成支援に関するニーズ調査」をさします。

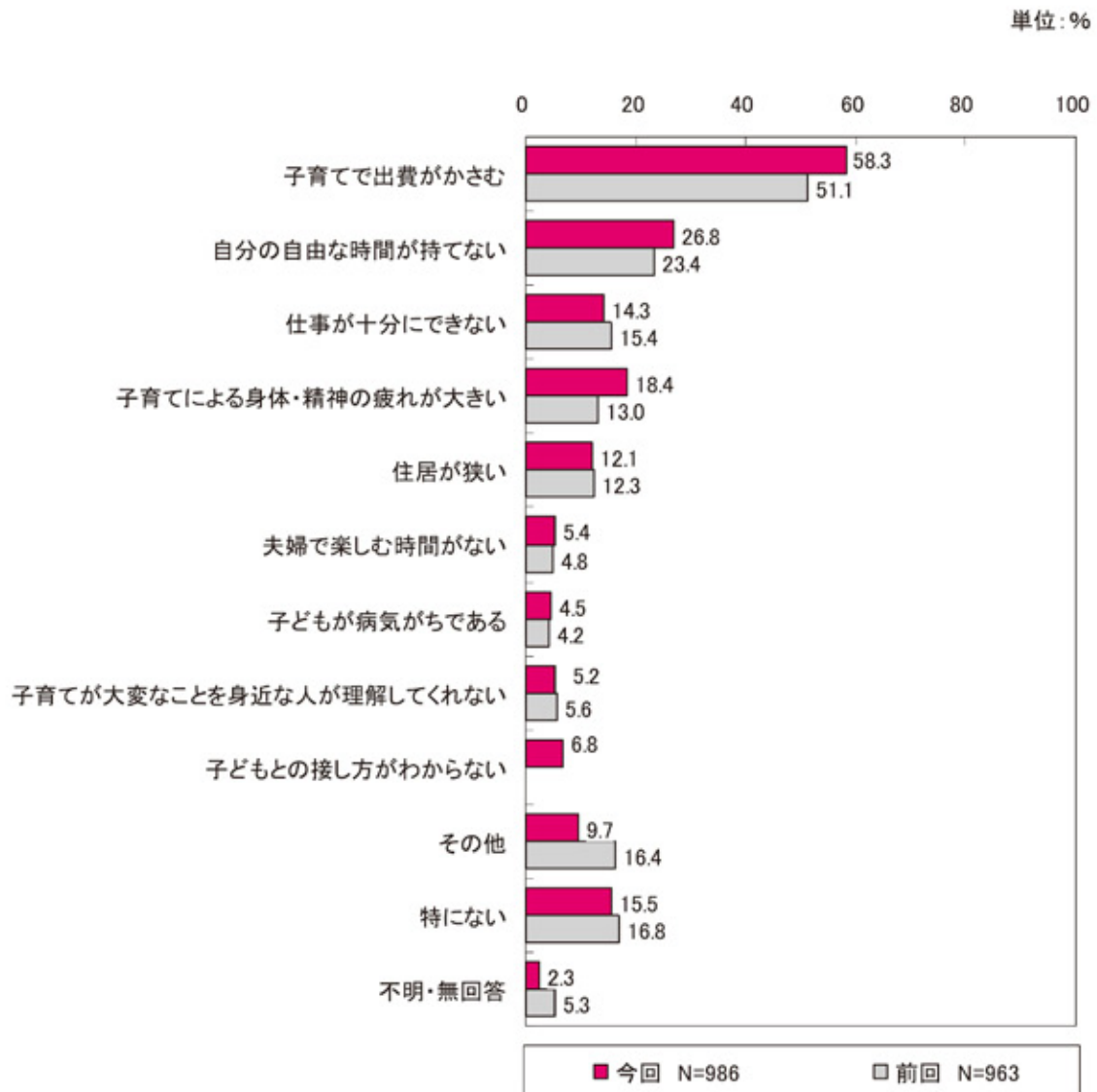
②特に不安に思っていること

1) 就学前児童調査では、「子育てで出費がかさむ」が最も多く、前回調査と比較しても10ポイント近く増加しています。



※「子どもとの接し方がわからない」は今回調査のみの項目

2) 小学校児童調査では、「子育てで出費がかさむ」が約6割を占めており、前回調査と比較しても、増加しています。

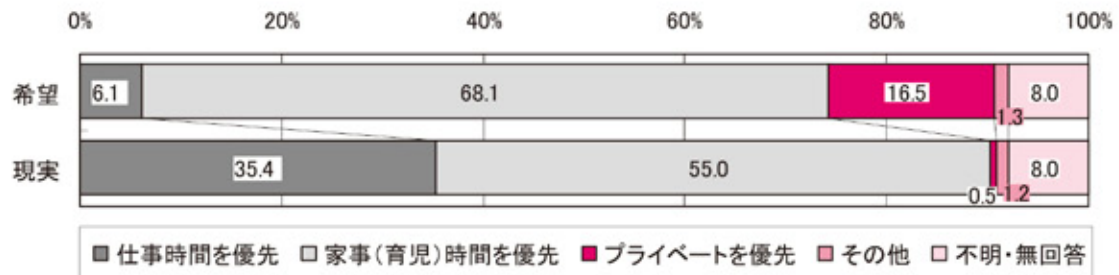


※「子どもとの接し方がわからない」は今回調査のみの項目

③生活の優先度と現在の状況

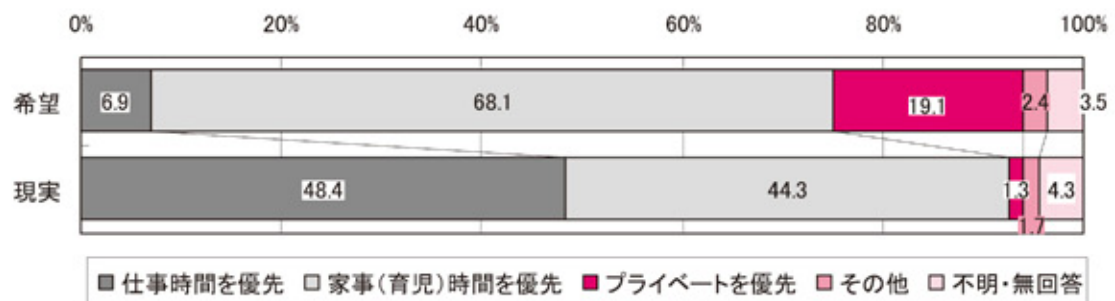
- 1) 就学前児童調査では、希望に反して現実においては「仕事時間を優先」している割合が多くなっています。

N=1,193



- 2) 小学校児童調査では、現実において「仕事時間を優先」が5割程度と最も多くなっています。また、希望に比べて現実では「仕事時間を優先」の割合が多くなっています。

N=986

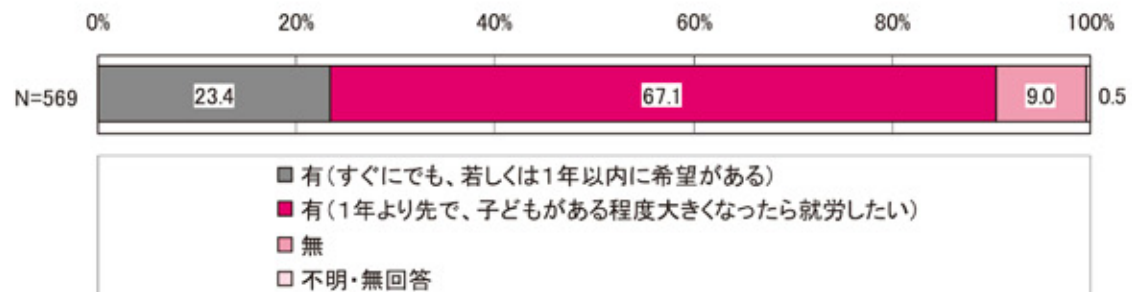


(2) 就労について

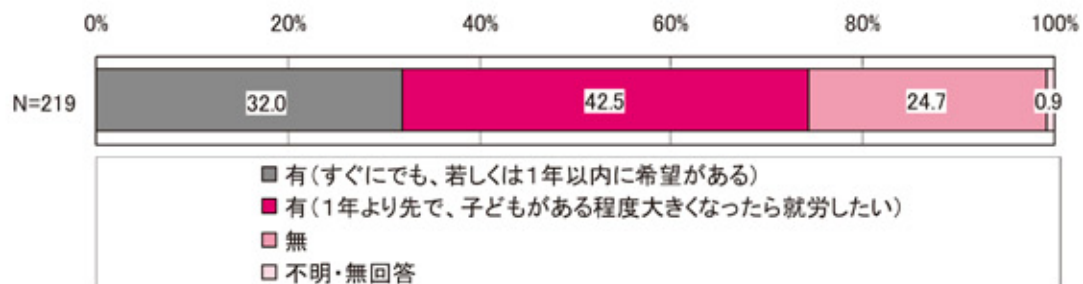
①母親の就労希望

- 就学前児童調査・小学校児童調査ともに、母親の就労希望は7割以上となっており、多くの母親が就労を希望しています。
- 就学前児童調査と小学校児童調査を比較すると、就労を希望する割合は就学前児童調査の方が多くなっていますが、すぐに就労を希望する母親の割合では小学校児童調査の方が多くなっています。

就学前児童調査

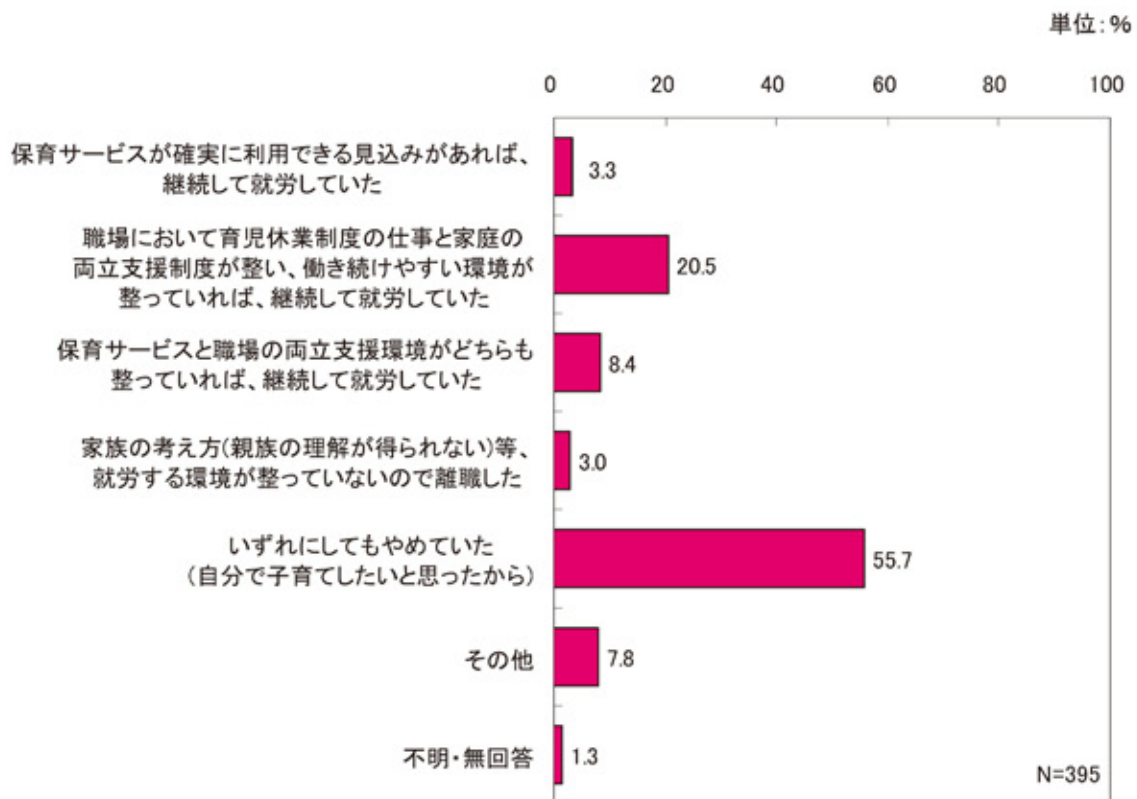


小学校児童調査



②就労の継続について

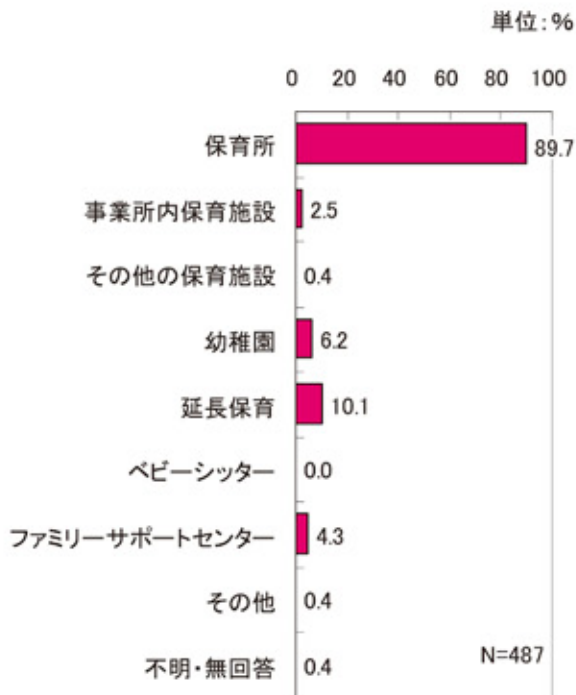
■保育サービスや環境が整っている場合に就労を継続していたかについてみると、「いずれにしてもやめていた（自分で子育てしたいと思ったから）」が5割を占めており、「保育サービスや環境が整っている場合に就労を継続していた」よりも20ポイント以上高くなっています。



(3) 保育サービスについて

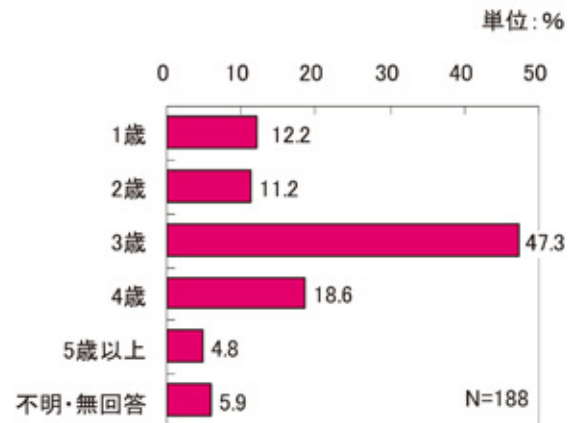
①利用している子育て支援サービス

■利用している支援サービスについてみると、「保育所」が89.7%と約9割を占めています。



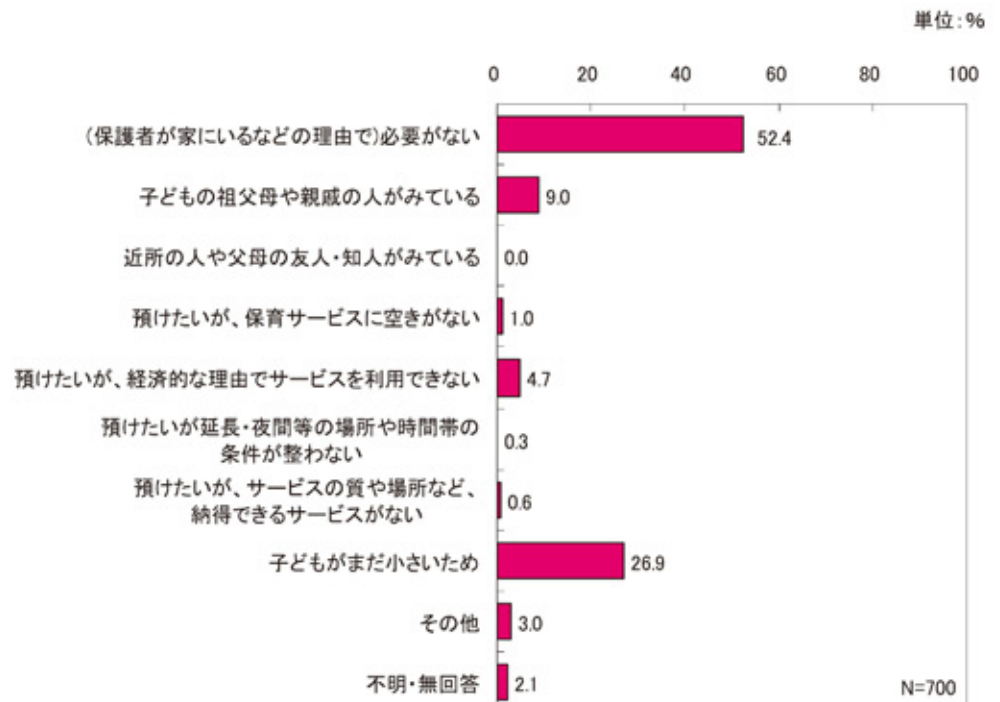
②預けようと考えている子どもの年齢

■「子どもがまだ小さいため」を選ばれた方の預けようとする子どもの年齢についてみると、「3歳」が47.3%と4割を占めています。



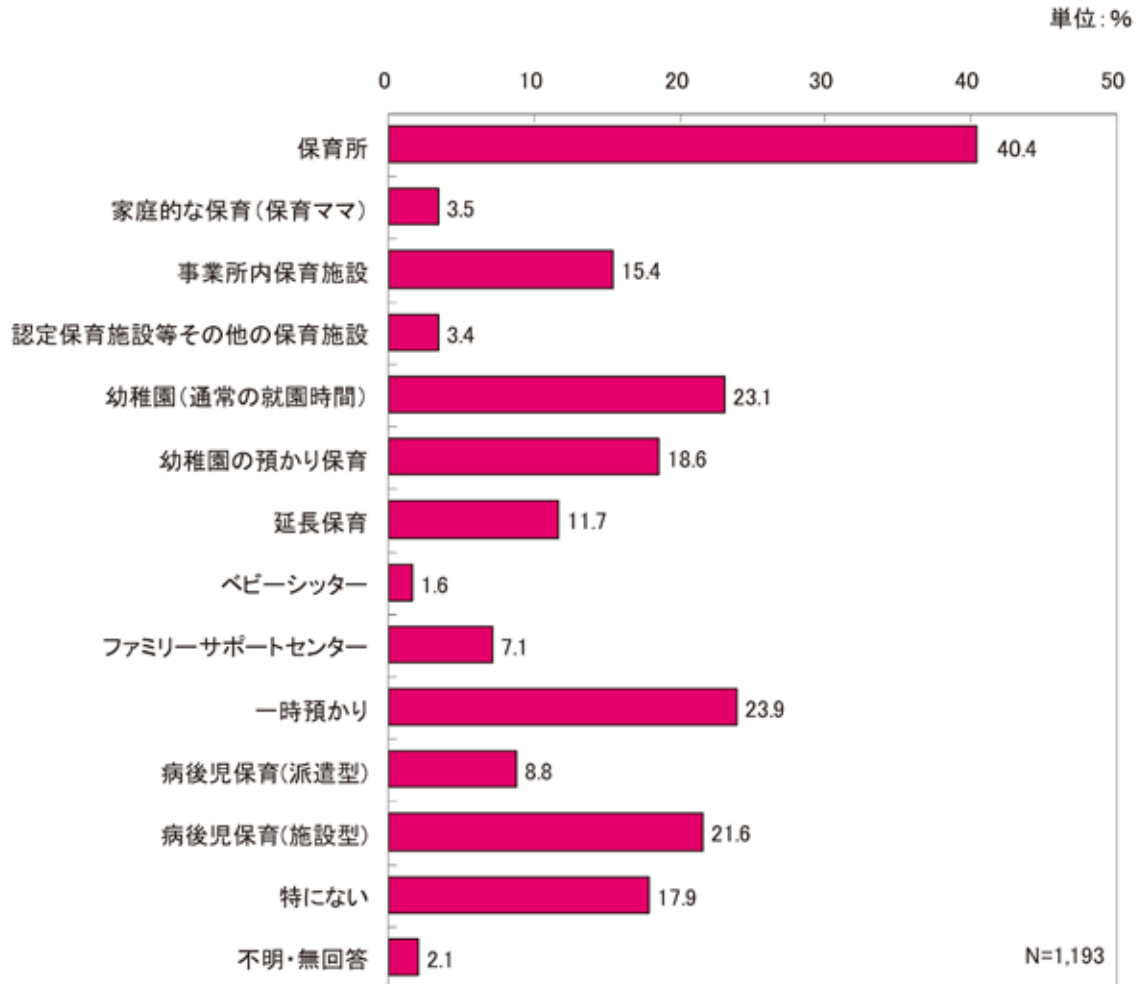
③保育サービスを利用していない主な理由

■利用していない主な理由についてみると、「(保護者が家にいるなどの理由で)必要がない」が52.4%と最も多く、次いで「子どもがまだ小さいため」が26.9%となっています。



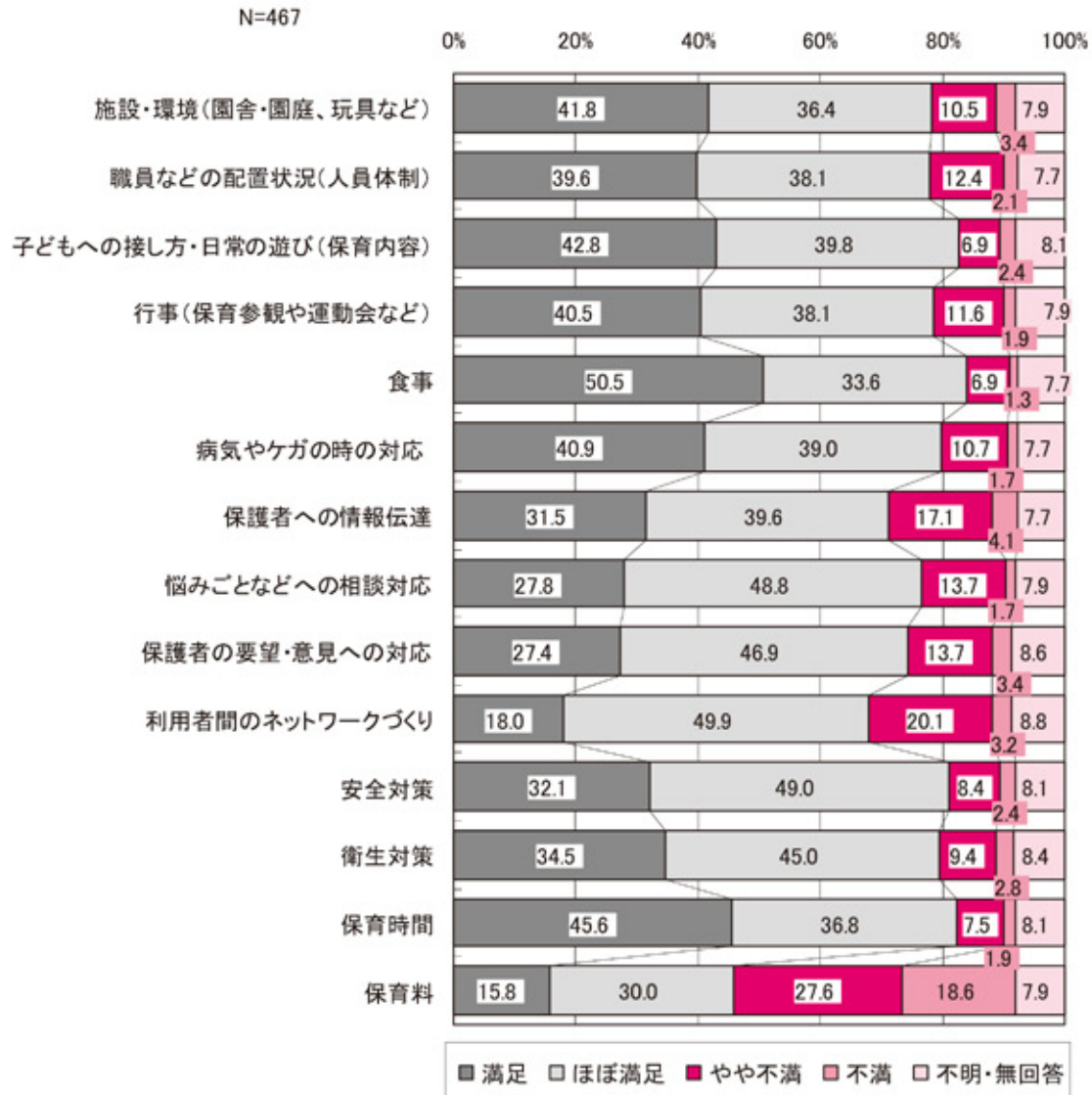
④保育サービスの利用希望、あるいは不足を感じる保育サービス

■利用したい、あるいは不足しているサービスについてみると、「保育所」が40.4%と最も多く、次いで「一時預かり」が23.9%、「幼稚園（通常の就園時間）」が23.1%となっています。



⑤現在通っている保育所や幼稚園に対して感じていること

■保育所や幼稚園に対して感じることにについてみると、『保育料』を除く全ての項目において『満足（「満足」と「ほぼ満足」を合わせたもの）』の割合は7割前後となっています。

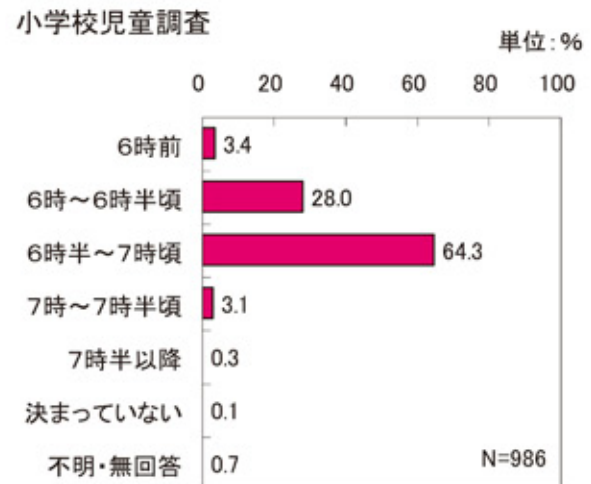
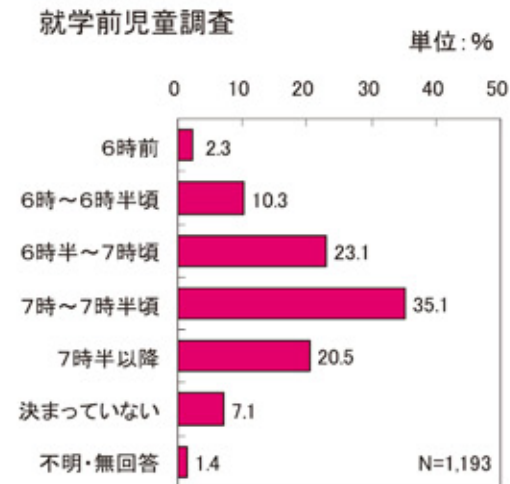


（４）健康（生活リズム）について

①子どもの起床時間（就学前児童調査）

■就学前児童調査において、子どもの起床時間についてみると、「7時～7時半頃」が35.1%と最も多く、次いで「6時半～7時頃」が23.1%、「7時半以降」が20.5%となっています。

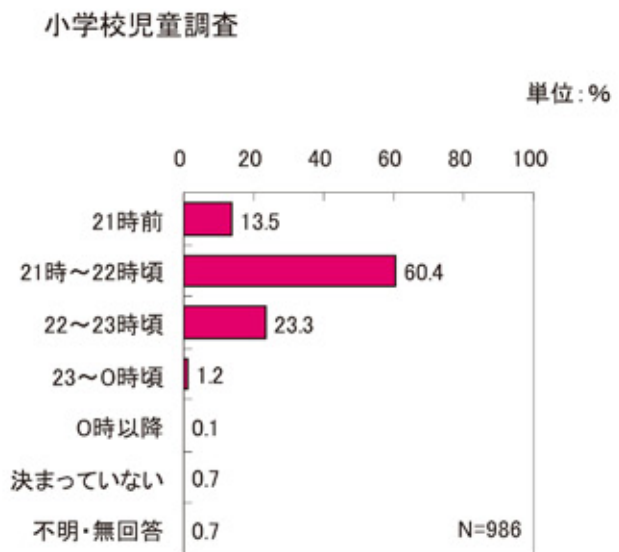
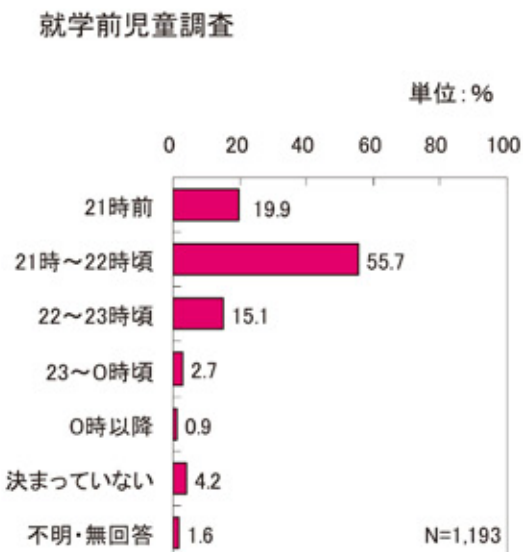
■小学校児童調査において、起床時間についてみると、「6時半～7時頃」が64.3%と6割を占めています。



②子どもの就寝時間

■就学前児童調査において、就寝時間についてみると、「21時～22時頃」が55.7%と5割を占めています。

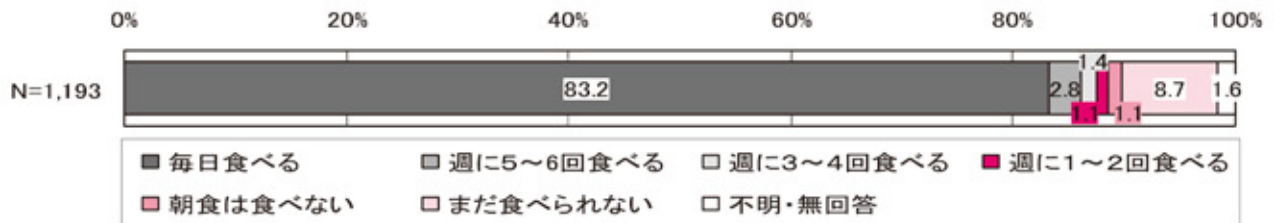
■小学校児童調査において、就寝時間についてみると、「21時～22時頃」が60.4%と6割を占めています。



③朝食の習慣

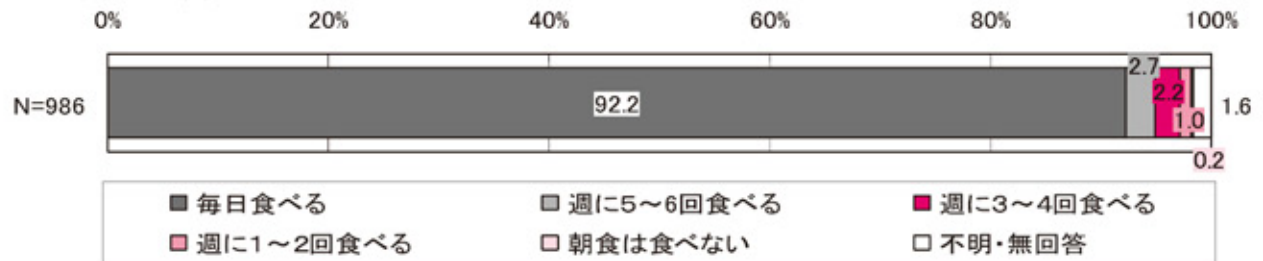
■就学前児童の朝食についてみると、「毎日食べる」が83.2%と8割を占めています。一方、「朝食は食べない」は1.1%となっています。

就学前児童調査



■小学校児童の朝食についてみると、「毎日食べる」が92.2%と大半を占めています。

小学校児童調査

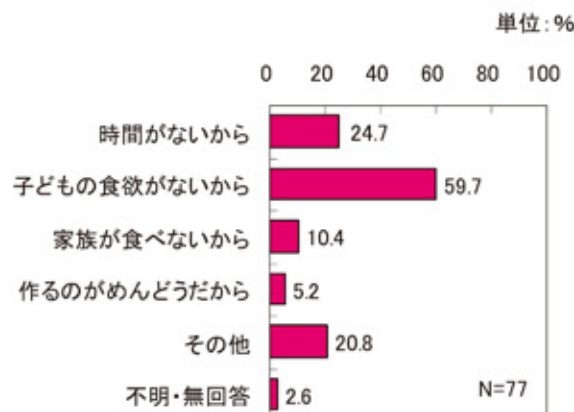


④朝食を規則的に食べない理由（「週に5～6回食べる」～「朝食は食べない」を選ばれた方）

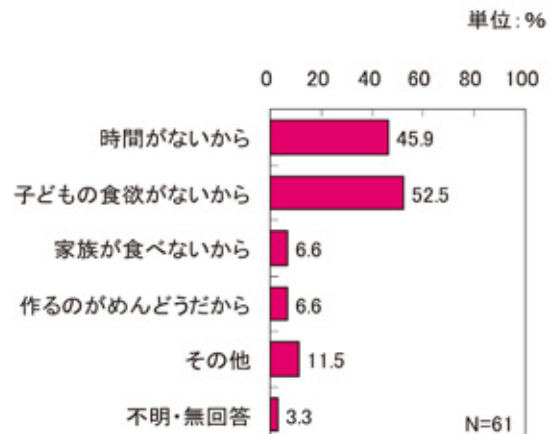
■就学前児童調査において、朝食を規則的に食べない理由についてみると、「子どもの食欲がないから」が59.7%と約6割となっています。

■小学校児童調査において、朝食を規則的に食べない理由についてみると、「子どもの食欲がないから」が52.5%と最も多く、次いで「時間がないから」が45.9%となっています。

就学前児童調査



小学校児童調査

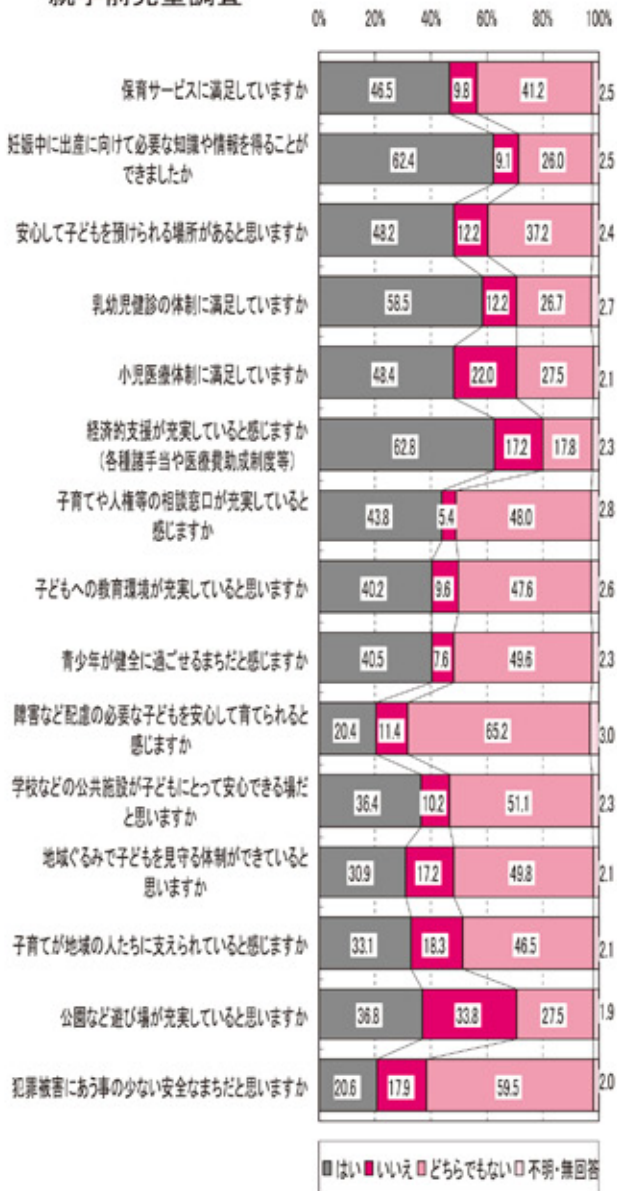


(5) 子育て施策全般について

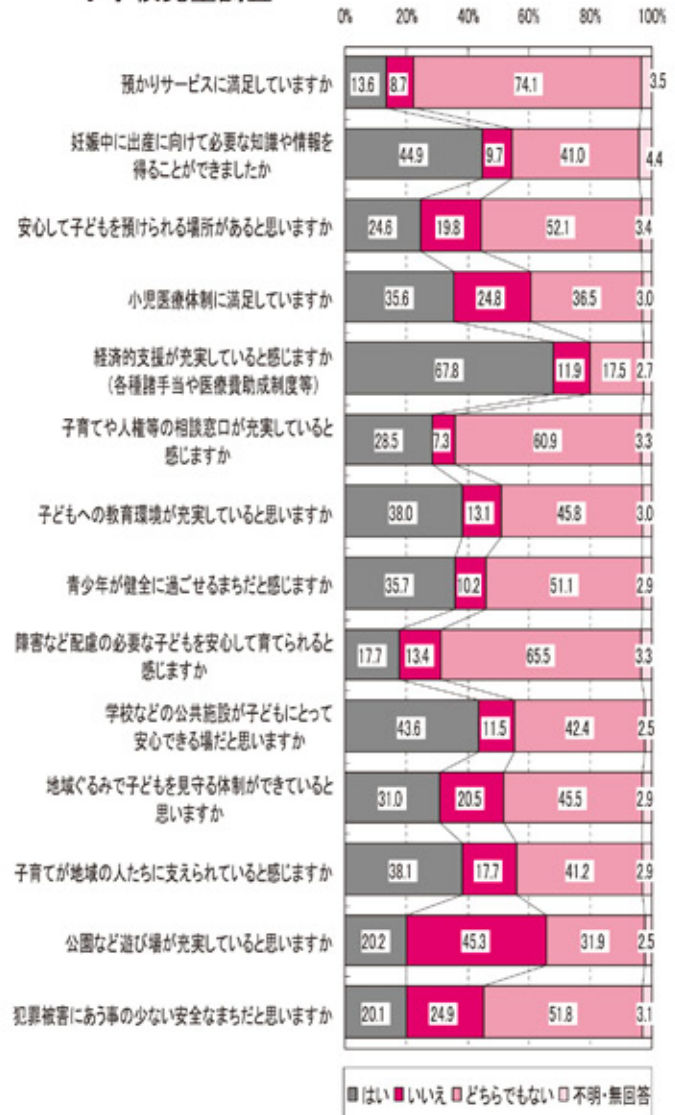
①現在、小野市について感じていること

- 就学前児童調査では、『妊娠中に出産に向けて必要な知識や情報を得ることができましたか』、『経済的支援が充実していると感じますか』で「はい」の割合が6割以上となっており、『乳幼児健診の体制に満足していますか』においても6割近い割合となっています。
- 『公園など遊び場が充実していると思いますか』では、就学前児童では約4割、小学校児童では約2割が「はい」となっています。
- 小学校児童調査では、『経済的支援が充実していると感じますか』で他の項目に比べて「はい」の割合が高く、6割以上となっています。
- 全体として小野市では、『経済的支援が充実している』と実感している保護者が多くなっています。

就学前児童調査



小学校児童調査

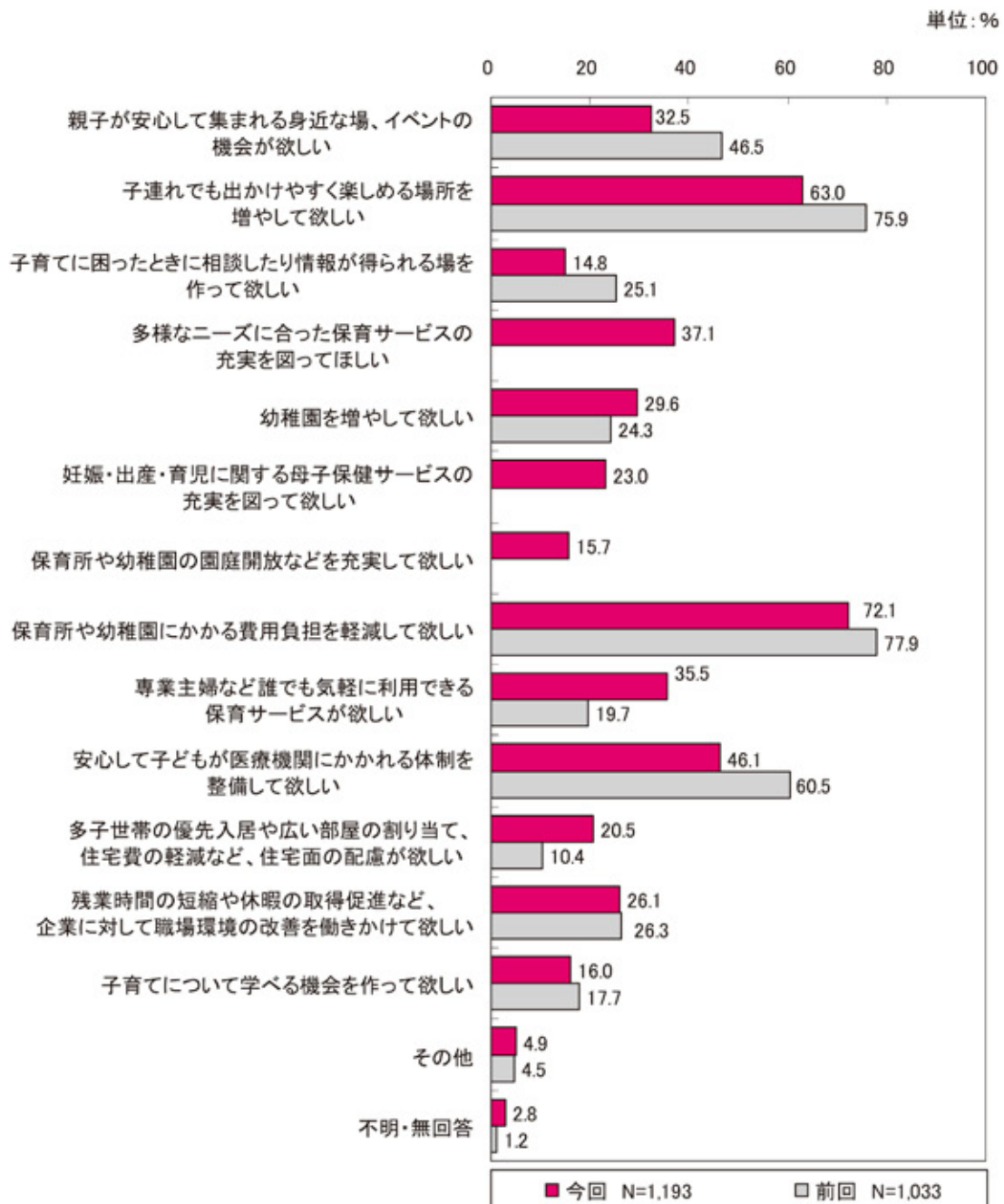


②今後、子育て支援について小野市に期待すること

1) 就学前児童保護者調査

■前回調査、今回調査のどちらとも「保育所や幼稚園にかかる費用負担を軽減して欲しい」が最も多くなっています。

■前回の調査と比較すると、「専業主婦など誰でも気軽に利用できる保育サービスが欲しい」と「多子世帯の優先入居や広い部屋の割り当て、住宅費の軽減など、住宅面の配慮が欲しい」が大きく増加しています。

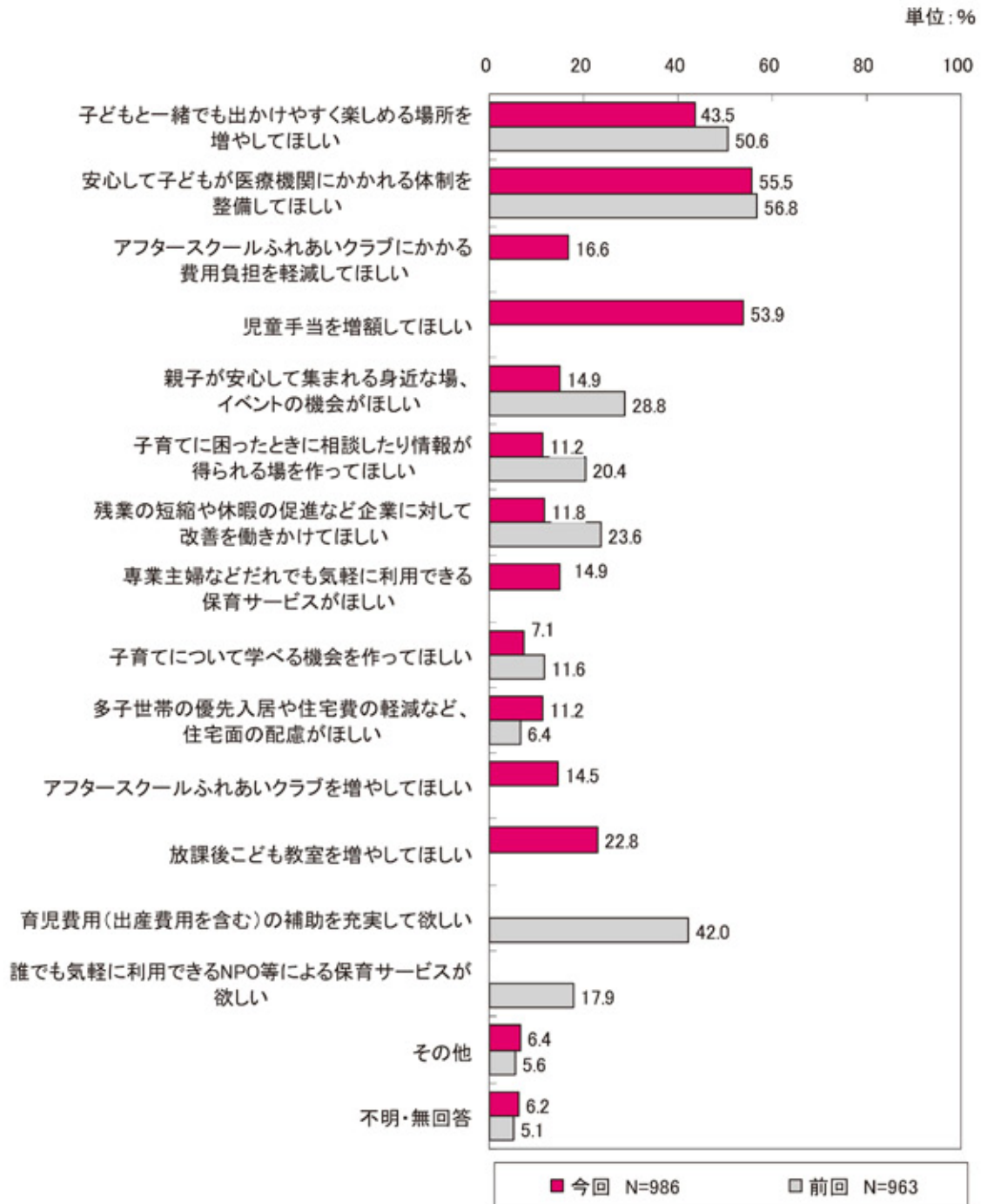


※「多様なニーズに合った保育サービスの充実を図ってほしい」「妊娠・出産・育児に関する母子保健サービスの充実を図って欲しい」「保育所や幼稚園の園庭開放などを充実して欲しい」は今回調査のみの項目

2) 小学校児童保護者調査

■前回調査、今回調査のどちらとも「安心して子どもが医療機関にかかれる体制を整備してほしい」が最も多くなっています。

■前回の調査と比較すると、「多子世帯の優先入居や広い部屋の割り当て、住宅費の軽減など、住宅面の配慮が欲しい」が就学前児童調査と同様に増加し、他の項目では増加はみられません。



※「アフタースクールふれあいクラブにかかる費用負担を軽減してほしい」「児童手当を増額してほしい」「専業主婦などだれでも気軽に利用できる保育サービスがほしい」「アフタースクールふれあいクラブを増やしてほしい」「放課後こども教室を増やしてほしい」は今回調査のみ、「育児費用(出産費用を含む)の補助を充実して欲しい」「誰でも気軽に利用できるNPO等による保育サービスが欲しい」は前回調査のみの項目

4. 前期計画から後期計画へ

（１）前期計画からみる現状と課題

前期計画期間（平成 17～平成 21 年度）の状況を統計データ等からみると、本市の人口等の経年変化では、出生数は平成 17 年 465 人から平成 20 年 451 人とほぼ横ばい状態ですが、年少人口は平成 17 年 7,958 人が平成 20 年には 7,837 人と緩やかな減少傾向を示しています。合計特殊出生率においては、平成 19 年の 1.42 から平成 20 年に 1.46 と上昇し、兵庫県 1.34 や全国 1.37 と比較しても高くなっています。

世帯状況では核家族世帯数や母子世帯数が増加し、一世帯あたり人員数も減少しています。一世帯あたり人員の減少や一人親世帯の増加は、子どもが育つ家庭の中で社会性、自立性を育む機能の低下が懸念されます。また、20 歳から 45 歳までの子育て世代の女性就業率の上昇と、一世帯あたり人員数の減少とが相乗し、子どもが家族とともに過ごす時間が減少しているのではないかと考えられます。

ニーズ調査では、子育ての不安と悩みについて、「子育ては楽しいですか」には「楽しい」「まあまあ楽しい」と 8 割以上の保護者が答えています。子育てに関する不安や負担感については、「不安や負担感を感じる」「なんとなく不安や負担感を感じる」割合は約 5 割となっており、前期計画策定時よりも減少しています。また、子育て施策全般について感じていることにおいても、9 割を超える項目で、満足している割合が満足していない割合よりも多くなっています。

国の新たな指針やこれまでの取り組みの成果と課題、市民の子育てを取り巻く環境の変化等を踏まえて、行政の支援だけではなく、保育機能の充実・強化や地域における子どもや子育て家庭への見守りや支え合いの機能がより一層、重要となってきます。

（２）後期計画に向けて

子どもの成長と子育て家庭への支援を総合的に進めるため、現状を踏まえた課題から、①生命の大切さを理解し次代の親として人間性を高めるための仕組みが充実している、②子どもの食に対する理解が深められる機会を充実する、③安心して子どもを預けられる場を充実する、の 3 点を重点施策として計画に盛り込んでいきます。

さらに、家庭や地域、職場などあらゆる場面で子育て支援が実感でき、子どもが尊重されていると感じられる小野市となるように、「地域社会全体で子どもを見守り・育てるために」として、それぞれの立場の人がこころがける項目を掲載します。

